クロニクル

松下　明男

新学期が始まり１週間が経ったが、まだまだ残暑厳しいこの日、所用で高輪を訪問した。

たまたま高校職員室で顧問の西島先生とお会いしたところ、「『停車場』へ寄稿してくれないか」とのお話をいただいた。〆切はこんどの金曜だそうだ。今日が火曜だから、残された時間はわずか４日間しかない。

高輪を卒業して３年半が経ったいま、突然の依頼と５年ぶりの『停車場』への投稿、そして刻一刻と迫るタイムリミットに正直戸惑いを隠せないが、貴重な機会をいただけたことに感謝と喜びの気持ちでいっぱいだ。現役時代の感覚を思い出しながら筆を執らせていただこう。

＊＊＊

中学一年のときに自分の CD ラジカセを手に入れた私は、毎晩寝る間も惜しみ、ニッポン放送の番組を中心にさまざまな深夜ラジオを聴くようになった。

すっかり「オールナイトニッポン」のヘビーリスナー、と同時に授業中は睡眠学習の常習犯となっていた私は、ある日、鉄研の部会がおこなわれる松崎学級の学級文庫に、定期購読されている『鉄道ジャーナル』誌と並んで『オールナイトニッポン大百科』なる書籍が置かれているのを発見した。父が昔「笑福亭鶴光のオールナイトニッポン」のリスナーだったことを知っていた私は、鉄研の活動日の度に『オールナイトニッポン大百科』の鶴光師匠の記事などを読んでは、自分の知り得ない時代に思いを馳せていた。

しかし、高校２年か３年の頃から、私はだんだんとラジオから遠ざかっていった。それまで聴いていたニッポン放送の番組に魅力を感じなくなってきたからだ。今でこそ「radiko」等のサービスを利用すれば、さまざまな AM/FM 局の放送をクリアな音質で聴くことができるが、一部の局を除いてはまだラジオ受信機で聴取するほかなかった当時、私の家はニッポン放送以外の AM 各局の受信環境が悪く、また FM ラジオはあまり聴かなかったため、「ニッポン放送を聴かない＝ラジオを聴かない」ようになってしまったのだ。

＊＊＊

私は高輪に入学した当初から旅行・鉄道研究部に入部していたが、鉄研旅行への参加や本誌『停車場』への投稿をするようになったのは中学二年になってからのことだ。鉄研では、夏・冬休みは車中泊のみの旅行をおこない、春休みに宿泊を伴う旅行を実施する。したがって、私にとって初めての宿泊が盛り込まれた鉄研旅行は、中学二年の春休みのときであった。

旅の行程はこうだ。まず初日の夜、東京駅から京葉線・武蔵野線・中央線まわりで大糸線に乗り入れる穂高行き快速「ファンタジー舞浜」号で出発し、２日目は北陸線・小浜線を経由して、当時まだ鉄橋だった余部橋梁近くの民宿に１泊。３日目は伯備線で岡山、岡山から瀬戸大橋線と予讃線で松山、松山からは快速「ムーンライト松山」号で２度目の車中泊。携帯ラジオで「西川貴教のオールナイトニッポン」を聴きながら、当時すでに貴重な存在となっていた客車列車に揺られて京都まで戻った。そして最終日の朝、京都に到着してからは、東海道線・御殿場線経由で東京へ帰ってくる、という旅程であった。

その行程で乗車した JR 予讃線に、堀江という駅がある。ライブドアのニッポン放送買収事件で世間が沸いていた当時、堀江駅に到着するやいなや、他の部員がその駅名を面白がり、盛り上がっていたことにどことなく不快感を覚えたことは、今や良い思い出である。

＊＊＊

高輪を卒業してから３年半が経とうとしていた今年の夏、５年ぶりに鉄研旅行に参加させていただいた。

現役の部員がこの旅行に関する記事を投稿していると思うので旅の詳細はそちらを参照されたいが、今回の旅行では、坂出～松山間および松山～高松間で予讃線を利用し、深夜に高松から「ジャンボフェリー」で神戸に戻るスケジュールであった。私は行程表を眺めながら、これが数年前なら、あの頃のように乗り心地の劣悪極まりない「ムーンライト松山」で本州に戻るのだろうなぁ、などと考えていた。

夕刻、松山駅を出発した伊予西条行きの普通列車が堀江駅に到着すると、中二の春休みの思い出が鮮明によみがえってきた。同時に列車内を見渡したが、旅行に参加していた現役部員たちは、とくに変わった様子もなくおのおの過ごしていた。

あの騒動も今は昔、当然と言えば当然なのだが、時が経ち忘れ去られる事件と、惜しまれつつも最終回を迎えた多くの名番組、そして時代の波に押されて消えゆく数々の列車たちが脳裏に重なり、私は一抹の儚さを感じたのだった。

＊＊＊

高輪を訪問した今日は鉄研の活動日だったので、活動の様子を見せていただいた。夏休み中も何度か訪問していたが、高学祭に向け確実に準備が進んでいるのがわかった。完成した作品たちはきっと、鉄研ブースで本誌をお手に取られた皆様方を大いに楽しませてくれていることだろう。私の頃からは想像もつかないほど大勢の部員たちが、百周年記念館で活発に、そして楽しそうに模型を制作している姿を見ると、OB としてとてもうれしくなり、ホッとした。

百周年記念館を出てグラウンドを眺めれば、運動部が一所懸命練習に励んでいる。校舎に入り職員室の扉を開ければ、お世話になった先生方があの日と同じようにお仕事をされている。高輪に帰ってくれば、自分の中学・高校時代を思い出させてくれるのはもちろん、後輩たちの数だけ多彩な学校生活を垣間見ることができる。「やっぱり学校っていいなぁ」そう思わせてくれるのが、私にとっての高輪なのだ。

そんなノスタルジアに浸っていると、ある考えが頭をよぎった。久しぶりに「オールナイトニッポン」を聴いてみようではないか、と。

さっそくニッポン放送のホームページを開いて現在のパーソナリティを調べてみると、私がリスナーだった頃の「オールナイトニッポン」１部パーソナリティは、どうやらナインティナインだけのようだ。

「“オールナイト”もずいぶん変わってしまったんだなぁ」などと思いながら、あまり期待せずに PC で radiko のアプリケーションを起動するとまもなく、「miwa のオールナイトニッポン」が始まった。そしていま、当時とはパーソナリティこそ違えど、まさに現役の鉄研部員だった頃のように「オールナイトニッポン」を聴きながらこの原稿を執筆している。

なんだ。「オールナイトニッポン」、あの頃と同じようにおもしろいじゃないか。

知らず知らずのうちに変わってしまっていたのは、実は私のほうだったのかもしれない。